

部会近況： 有機結晶部会ニュースレターが電子版になります。

第 101 年会では「有機化学-有機結晶・超分子化学」部門での発表をお願いします！

部会長 赤染元浩（千葉大学大学院）

部会員の皆様におかれましては、コロナ禍の新たな生活様式への対応のもとに順調に研究活動が進められていることを切に願うばかりです。また、この巻頭言をご覧いただけているのであれば、有機結晶部会ニュースレター（以下、NL と略）の電子版化を実施した部会長として安堵しております。

本年 3 月の NL46 号を発行した時点で、有機結晶部会も COVID-19 の大きな影響を受け、第 100 春季年会や 3 年毎の有機結晶のアジア国際シンポジウムも予稿集をもつての名目開催になり大変残念でした。また、部会活動の中核をなす秋の部会シンポジウムも、COVID-19 により延期を余儀なくされています。次年度の開催をどのように行えるのかの判断もつかず、部会長としてお詫び申し上げます。

一方、日本化学会第 101 春季年会がオンライン開催となりますが、ひとまず部会として研究発表の場が得られたのは幸いです。本年会では同時に年会改革も行われ、部門変更や実施手順も大きく変わります。巻頭言のタイトルは、部会近況として皆様に今一番お伝えしたいことです。あわせて、NL の大きな改革を行った事情など、この場を借りて 3 点の説明をさせていただきます。

【有機結晶部会 NL が電子版になります】

年会改革に伴い、2021 年 3 月開催の日本化学会第 101 春季年会から、年会要旨の冊子体が作成されません。また、有機結晶が単独部門でなくなり（以下に後述）、従来のように年会要旨を NL 春号に差し込めず、NL 冊子体の利便性が失われます。これらの理由から、2021 年春号からの NL 対応を検討しました。さらに、本年度秋の部会シンポジウムを見送ったため事業収入が見込めず、本年度の部会会計の赤字回避の点から、2020 年秋号からの NL の電子版化を早めて実施することと致しました。

状況を少し説明すると、現在の部会員数は二百数名です。NL の発行に際し、年 2 号の発行と郵送に 50 万円以上になる出版経費をかけていました。この他にも、部会運営経費には、化学会の部会事務担当人件費やシンポジウムの会場費等の諸経費や消費増税分が必要です。これらに対して皆様からの貴重な部会費（約 70 万円）を中心に運営し、不足分は部会シンポジウムの黒字や過去の資産を少々取り崩しながら、何とか補ってまいりました。1997 年創設以来、部会費は正会員 3 千円のまま維持する方針のもと、年々増加する NL の出版経費の捻出が、部会運営を圧迫する状態でした。そこで、部会メールのシステム整備やホームページ（以下、HP と略）が充実された現在、NL の電子版化のタイミングに至ったと、部会役員会で判断させていただきました。

当初は、現状の NL を電子版化することのみを想定していましたが、NL 編集担当である広報委員会でもそのあり方を検討していただいた結果、電子版化を選択するのであれば、これを機に NL 自体の改革も行い、より魅力的内容や部会活動の活性化につなげたいとの改革案をいただきました。2021 年度からは、電子版の良さを機動的に活かして NL を新たなスタイルに変えていく予定ですので、ご期待下さい。

【有機結晶部会 HP と部会員専用メールのご利用のお願い】

今後発行される NL 電子版は、有機結晶部会 HP (<https://oc.csj.jp/>) に収納されます。随時、皆様への情報提供の場としての部会HPの一層のご利用をお願い致します。

また、部会員専用のメーリングシステムは昨年度から運用しています。NL の原稿募集や発行の案内等の部会からの連絡は部会メールを活用していきます。部会メールが未着の方は、日本化学会の会員マイページで、配信先 E-mail の登録とメールマガジン (学会からのお知らせ) を希望するにチェックがされているか、ご確認ください。配信登録をしますと、部会員専用のメールのみならず、化学会事務局のお知らせも届きますが、化学会の部会ですのでご容赦下さい。

【第 101 年会では「有機化学—有機結晶・超分子化学」部門での発表をお願いします】

もう一つの大事なお願いは、日本化学会の春季年会(2021年3月19日(金)~22日(月)オンライン開催)での発表部門変更についてです。昨年度開催の第 100 年会までは有機結晶は単独部門でありましたが、今回の年会改革で実施方法が大きく変わります。従来の「有機化学—構造と物性」と「有機結晶」の統合・再編により、「有機化学—有機結晶・超分子化学」部門となります。部門幹事やプログラム編集委員も有機結晶部会(ディビジョン)が担当しますので、従来通りの研究発表の場としていただきますよう、よろしく願い申し上げます。なお、講演申込募集期間は 2020 年 10 月 28 日~12 月 3 日です。

今回の改革では、大枠では有機化学に入ることとなりますので、従来のようにポスター会場の組み合わせが悪く聴衆が集まりにくいことや、会場が離れ小島になる不都合さは、解消されると思います。また、超分子化学との接続により新たな研究者の交流が広がることを、チャンスにとらえていただきたいと存じます。詳細は日本化学会 第 101 春季年会 (2021) HP (<https://confit.atlas.jp/guide/event/cs101st/top>) をご覧下さい。

【最後に】

部会発足当時から NL の冊子体を受け取る時が、部会員であることを感じる機会でした。私自身も NL 編集を 5 回担当し、冊子体への愛着も大きく、それをなくすことに抵抗がありました。全 46 号が書棚に並ぶと 29.5 cm もの幅になります。【写真】では、創刊の 1 号、部会 10 周年の 20 号、20 周年の 41 号、冊子体最後の 46 号を前面に広げました。電子版では部会 HP が新たな書棚となる



【写真】有機結晶部会ニュースレター (前列左から 1 号、部会 10 周年の 20 号、20 周年の 41 号、冊子体最終の 46 号)

るので個人での収納スペース確保からは解放されます。現部会員の皆様には部会 HP の活用が増えること、また、新たに部会員となる方には既刊号を介して部会の歴史を共有できるものと期待しています。

少し早くて恐縮ですが、部会長として部会員・部会役員・化学会事務局の皆様のお力添えで部会運営できたことお礼申し上げます。誠にありがとうございました。コロナ禍もまだ先が十分見えない状況ですが、部会運営につきましても、皆様からのご意見等もお寄せいただければ幸甚に存じます。

コロナ禍ではありますが、部会員の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。